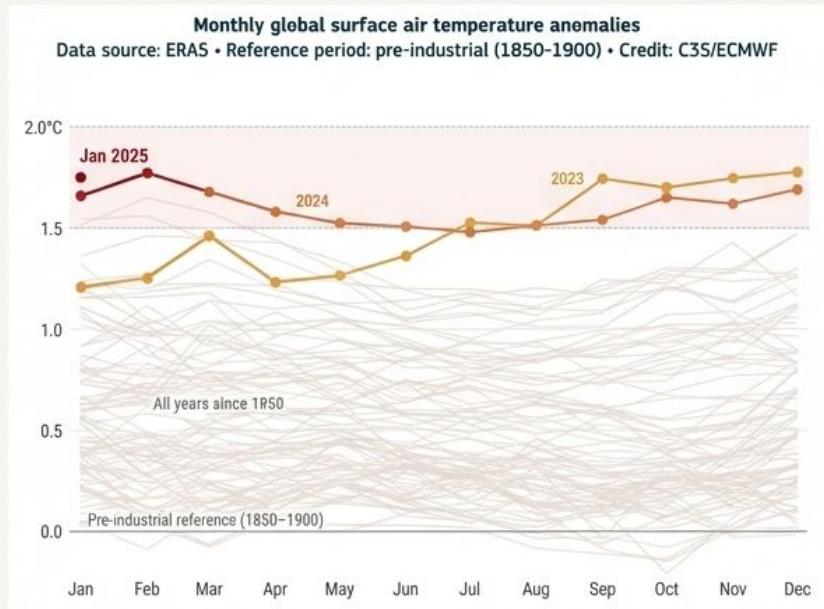


100年後も地球と生きる

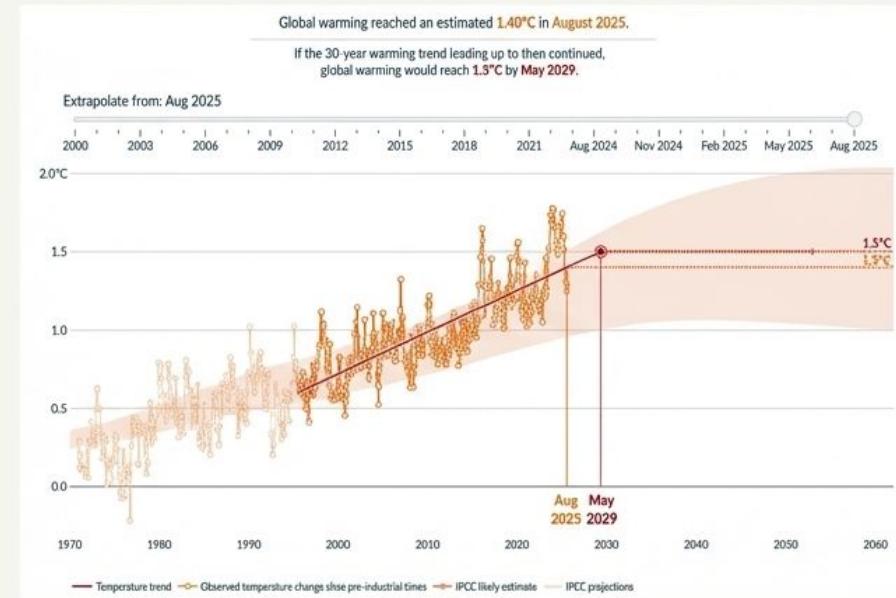
paramitaは、人口減少社会と気候変動の時代を生き延びるために、
「自然が再生し続ける世界」と「地域経済が持続する未来」を両立させます。

個人、企業、自治体、研究者、アーティストなど多様な主体が交わり、
生命（いのち）を中心に据えた関係性をデザインすることが私たちの役割です。
無目的な利便性の向上や単なる経済合理性の追求ではなく、
身近な暮らしの課題から地球規模の問題までを結びつけ、
何かを犠牲にすることなく連鎖的に解決していく共創のプラットフォームとなります。

気候変動問題の現在地：地球は後戻りできない地点に近づいている



2025年1月の世界気温、産業革命前を1.75°C上回る：史上最高温
2025年1月は世界的に最も暖かい1月となり、過去19か月のうち世界平均地表気温が産業革命以前の水準より1.5°C以上高かった連続18か月目となった。

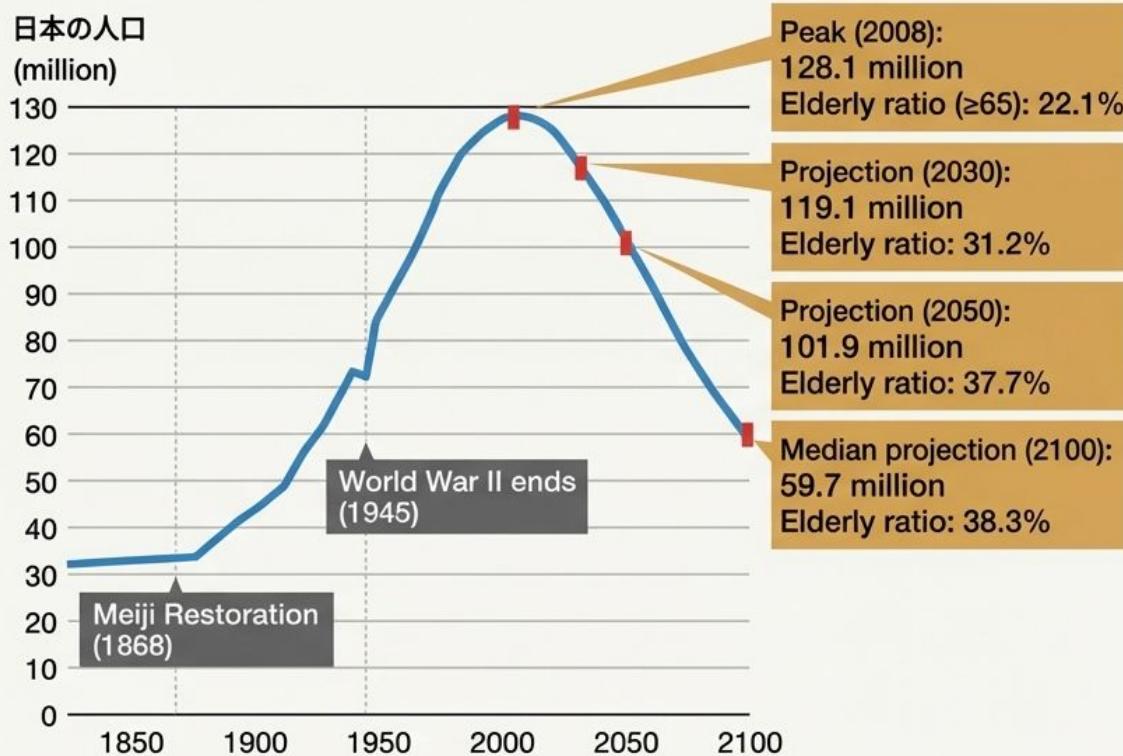


2029年5月には1.5°C目標を超える

このままの傾向が続ければ、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が示す1.5°Cの閾値を2029年5月には恒常的に超えると予測される。これは「Hothouse Earth」への連鎖的なフィードバックループを引き起こす転換点となる可能性がある。

日本の人口減少と超高齢化：根底から揺らぐ社会基盤

日本の人口は2008年の1億2810万人をピークに減少し、2050年には1億190万人（高齢化率37.7%）、2100年には5970万人（高齢化率38.3%）まで減少すると予測されている。これは税収減と社会保障費の増大を意味し、多くの自治体で従来の行政サービスやインフラの維持が困難になることを示唆している。



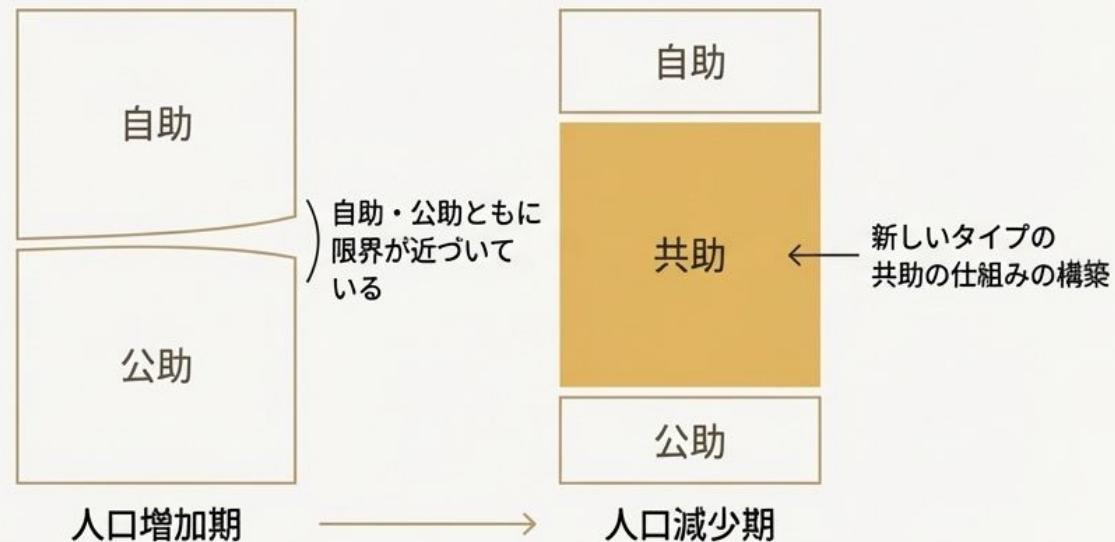
Created by the author based on the Long-Term Analysis on Population Distribution in Japan (National Land Agency, 1974); additional data for 1920 onward from the National Census and the Revised and Interpolated Population Figures for the 2005 and 2010 National Censuses (Ministry of Internal Affairs and Communications) and Population Projections for Japan (National Institute of Population and Social Security Research, 2017).

これまでの仕組みの限界

人口増加期に最適化された社会システムは、自助・公助とともに限界を迎えつつあります。

市場原理は人口減少地域から撤退し、行政サービスも縮小せざるを得ません。

この構造的な問題を解決するには、個別の事業や課題解決だけでは不十分です。



私たちに必要なのは、社会のOSそのものをアップデートすること。
すなわち、住民、企業、行政が連携し、共助の仕組みを再構築すること。

Local Coop（ローカルコープ）：第二の自治体の実装

Local Coopは、従来の自治体機能の一部を補完・代替する「第二の自治体」です。

これは、行政サービスを住民と民間企業が主体的に担う、自律分散型の共同体運営システム（共同体OS）です。

〈現状〉

従来の地域社会では自治体が
公共サービスやインフラの多くを担っている

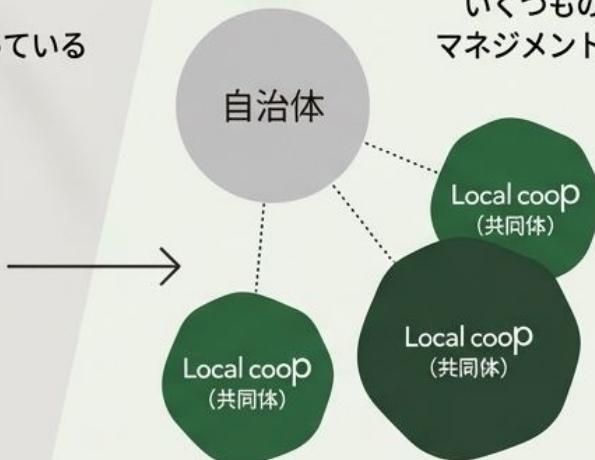


自治体

自治体=従来の共同体OS

〈目指す世界〉

いくつもの共同体がより自律的に公共サービスを
マネジメントすることで分散型の社会へとシフトする



自治体+Local Coop=新たな共同体OS



企 業

サービス開発/実装/運営

税収以外の財源を確保し、地域のインフラやサービスを共助によって維持・運営することを目指す。

実証エリア



Tatsugo, Amami
Population: 6,000



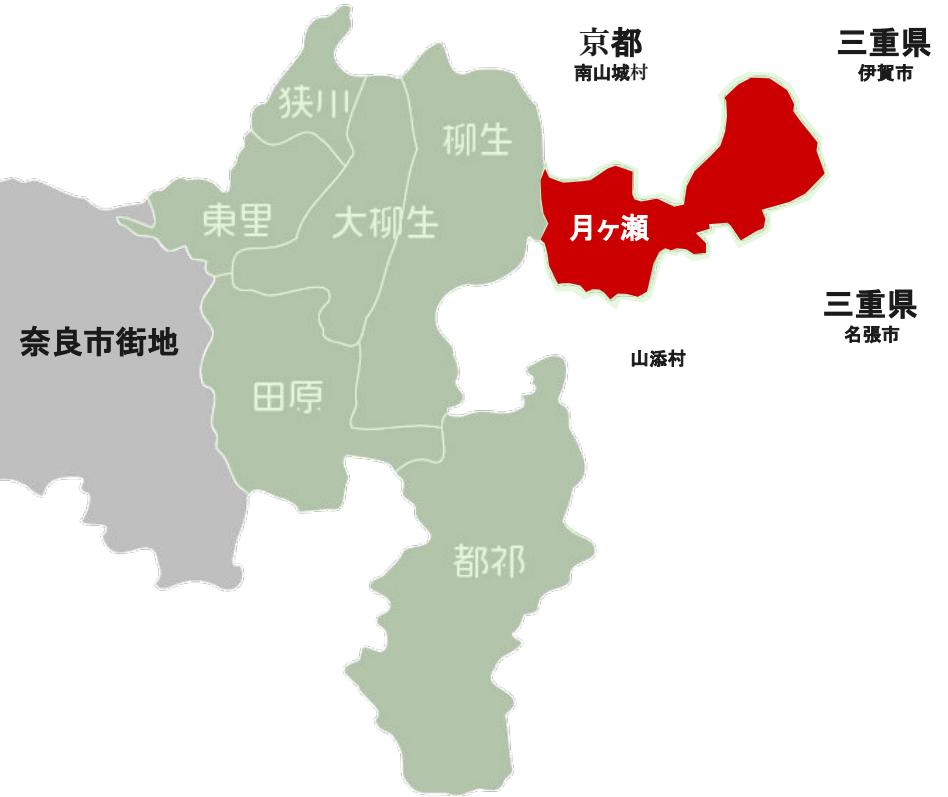
Tsukigase
Population: 1,200



Owase
Population: 15,000



奈良市東部地域 = 大和高原



京都
南山城村
三重県
伊賀市
三重県
名張市



月ヶ瀬

Tsukigase

- ・奈良県北東部に位置する中山間地域
 - ・2005年4月1日に奈良市へ編入合併
 - ・6集落 / 494世帯 / 人口1,171人 / 高齢化率49.2% (2025年5月1日現在)
 - ・主な地域資源:茶、梅林
 - ・月ヶ瀬梅林は日本で初めての名勝地の1つ
- (参考) [greenz.jp取材記事](#)

行政に任せていた「自治」を、自分たちの手に取り戻そう。

中山間地域の未来の暮らしのモデルをつくる「Local Coop 大和高原プロジェクト」の挑戦



烏梅



大和茶



奈良晒



温泉

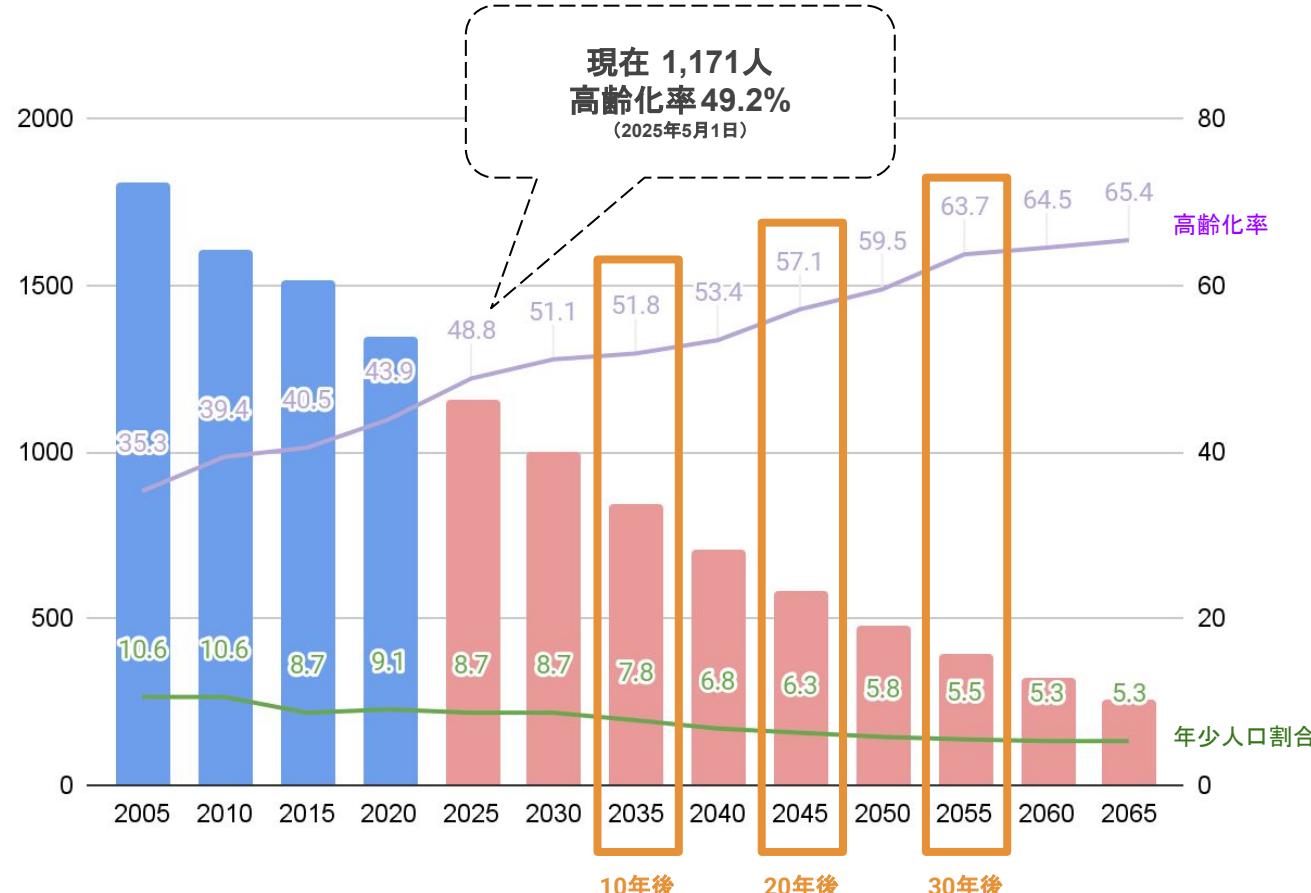
月ヶ瀬の将来推計人口



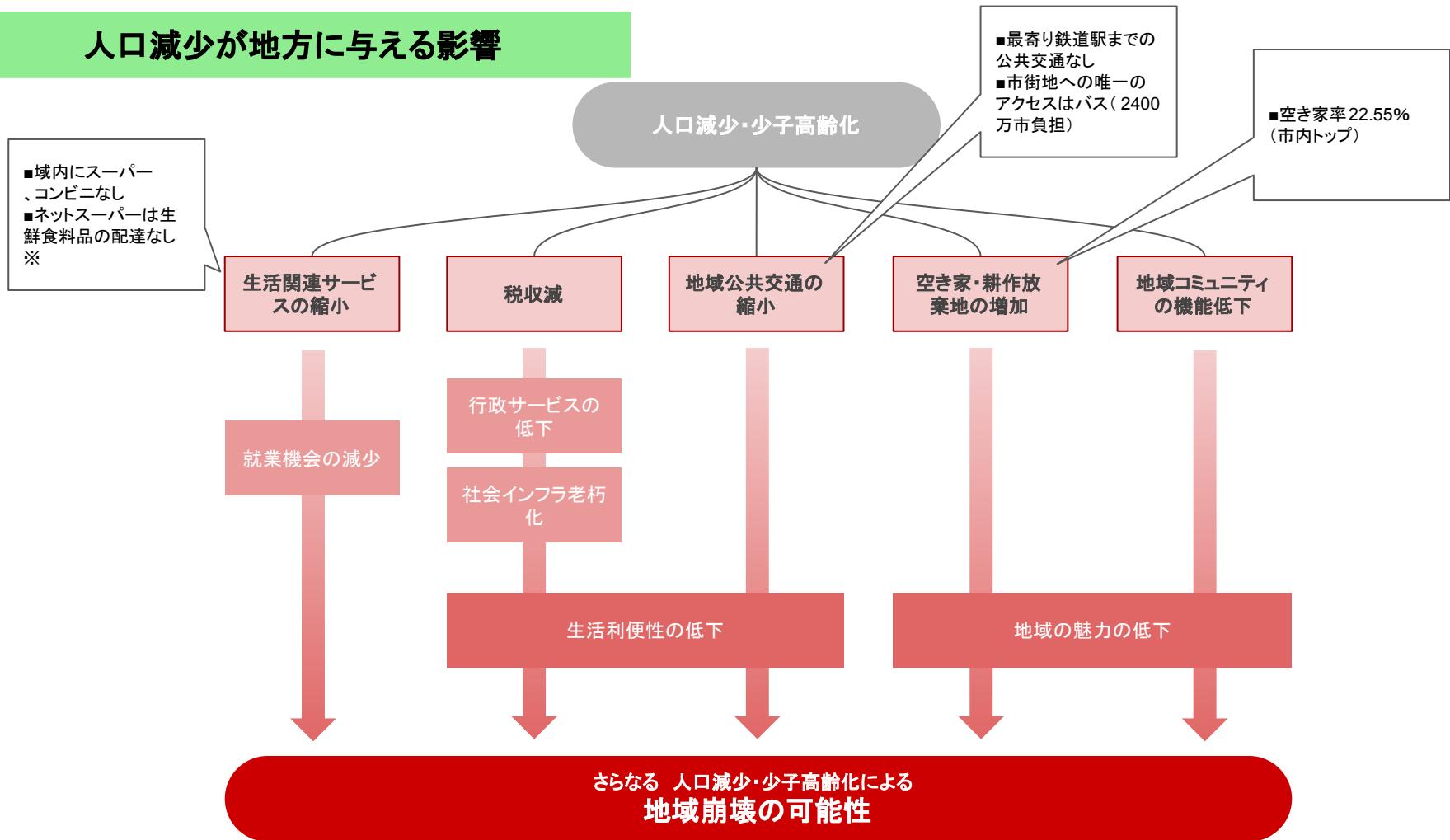
昭和46年 月ヶ瀬小学校新校舎落成



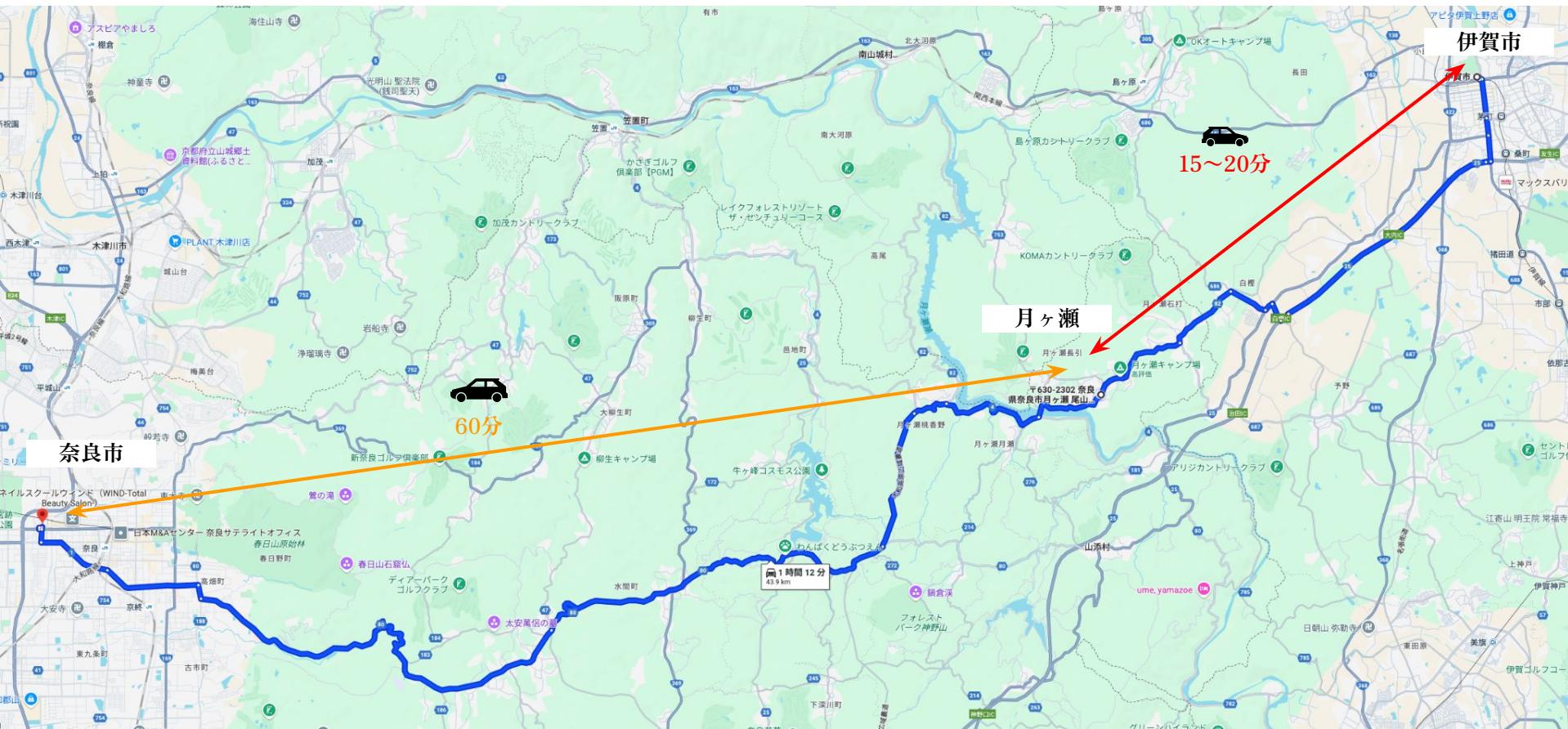
昭和59年 第39回わかくさ国体
(上皇陛下・上皇皇后陛下)



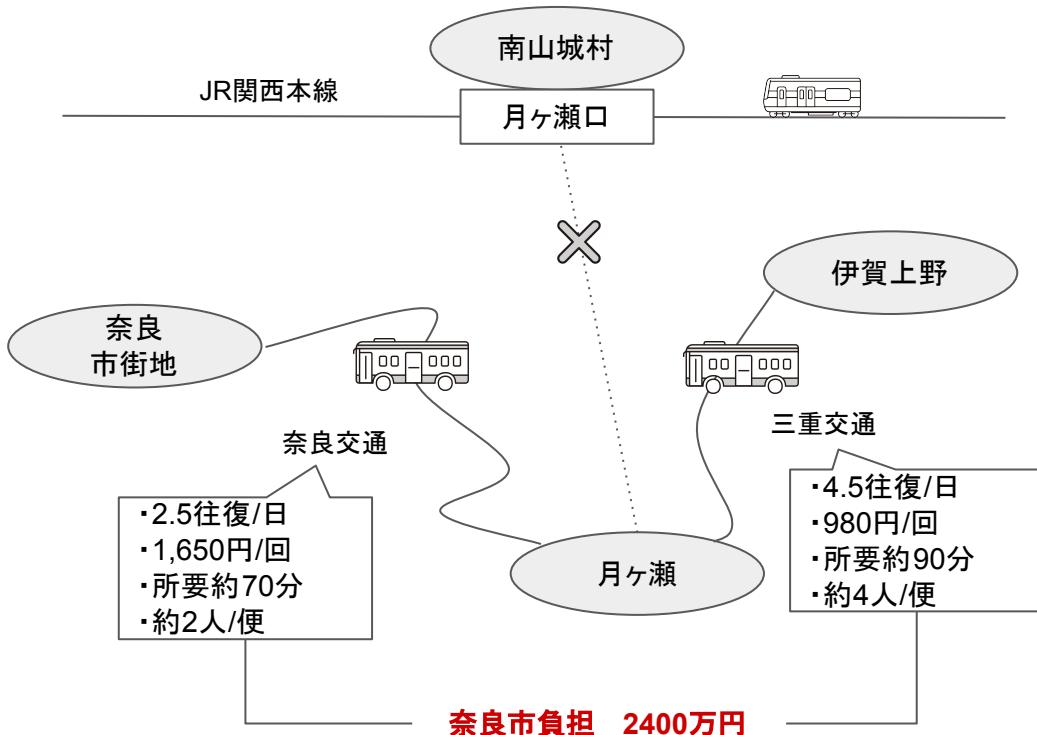
人口減少が地方に与える影響



市街地へのアクセス



月ヶ瀬の交通状況



月ヶ瀬地区の路線バスの運行状況 (市からの委託により運行)

令和4年度市予算: 23,476千円

月ヶ瀬地区のバスの運行状況

本数は少ないものの、赤字相当額の行政負担により路線バスの運行を維持

奈良交通路線バス運行状況

尾山診療所前→JR奈良駅西口行き

時	平日	土日祝日
11時	18分	19分
15時	11分	20分

2便

尾山診療所前→石打行き

時	平日	土日祝日
10時	33分	33分
14時	7分	7分
18時	39分	39分

3便

三重交通路線バス運行状況

尾山診療所前→上野市駅(方面)行き

時	平日	土日祝日
7時	12分	—
8時	7分	7分
9時	42分	42分
12時	42分	42分
14時	57分	—
15時	—	42分
16時	42分	—

上野市駅
行きは
平日6
便、
土日祝日
4便

時	平日	土日祝日
7時	42分	—
12時	9分	9分
14時	30分	—
15時	—	10分
16時	4分	—
17時	—	29分
18時	14分	—

柳ヶ瀬駅
行きは
平日5
便、
土日祝日
3便

1日2.5往復の運行のみ

柳ヶ瀬地区(邑地中村)から月ヶ瀬地区への運行について、年間約1,100万円の市からの行政負担が発生

令和3年度年間利用者: 3,560人
1便平均: 約2人

上野市駅～月ヶ瀬地区は 平日4.5往復、土日祝日3.5往復の運行のみ

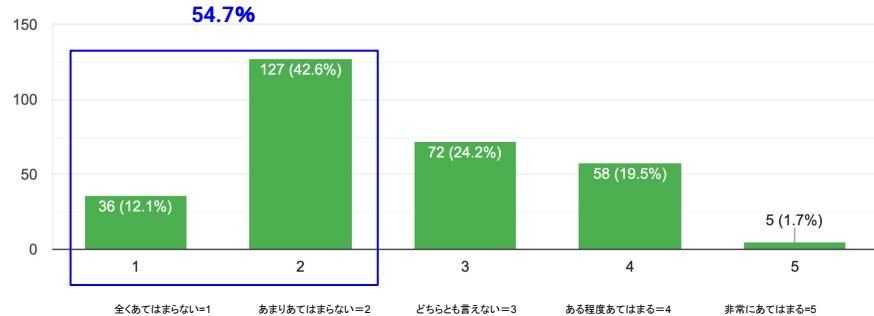
上野市駅から月ヶ瀬地区への運行について、年間約1,000万円の市からの行政負担が発生(伊賀市もほぼ同額の負担)

令和3年度年間利用者: 13,652人
1便平均: 約4人

住民の意識(医療・交通・買物・雇用)

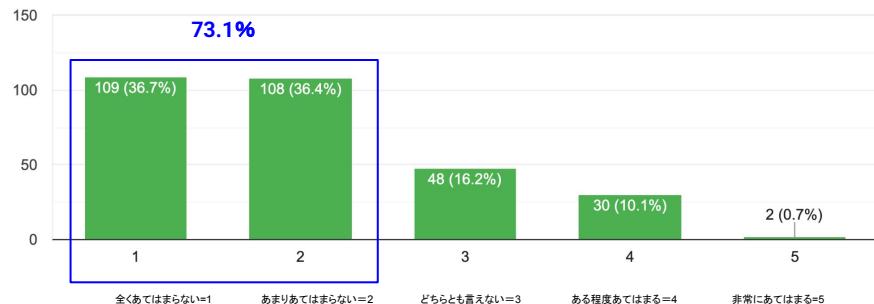
5. 暮らしている地域は、医療機関が充実している（医療・福祉）

298件の回答



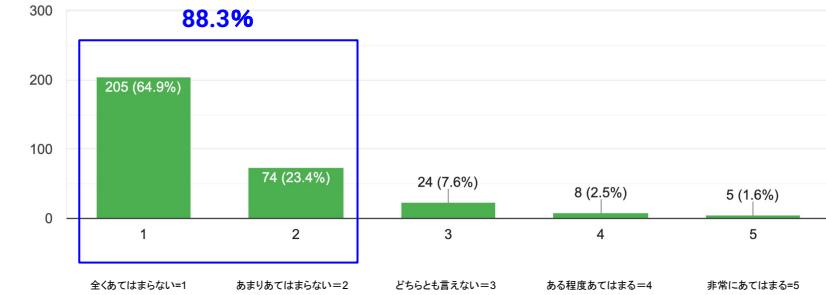
7. 暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない（買物・飲食）

297件の回答



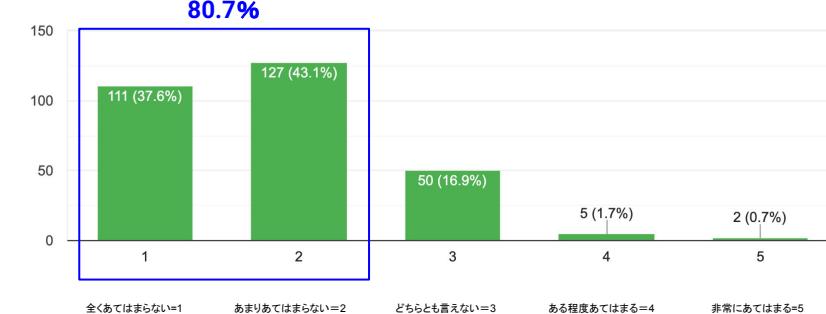
12. 私の暮らしている地域では、公共交通機関...時に好きなところへ移動ができる（移動・交通）

316件の回答



48. 私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい（雇用・所得）

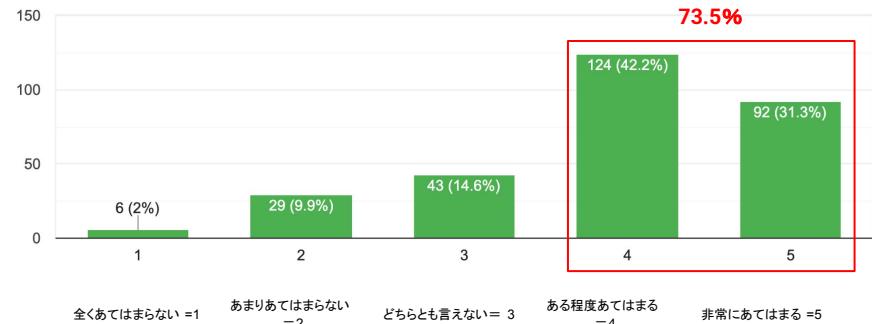
295件の回答



住民の意識(自然・文化・つながり・住み続けたいか)

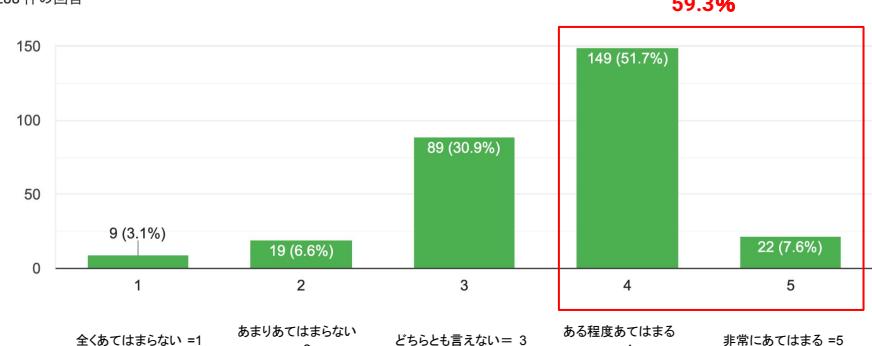
2 5. 私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある（自然景観）

294 件の回答



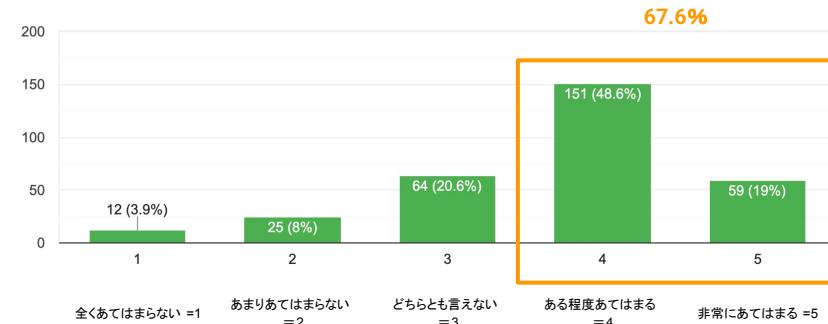
3 5. 私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする（地域とのつながり）

288 件の回答



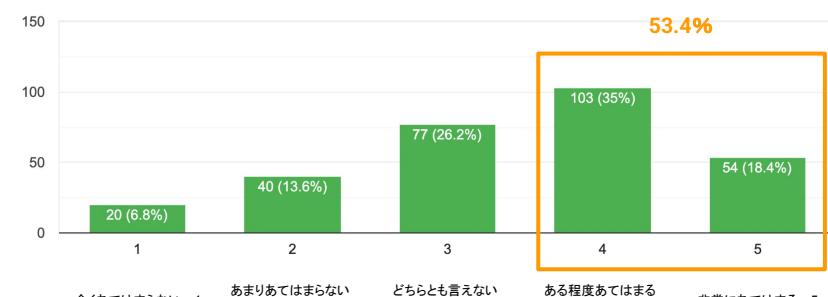
4 6. 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（文化・芸術）

311 件の回答



5 1. あなたはこれからも月ヶ瀬地域に住み続けたいと思いますか（追加）

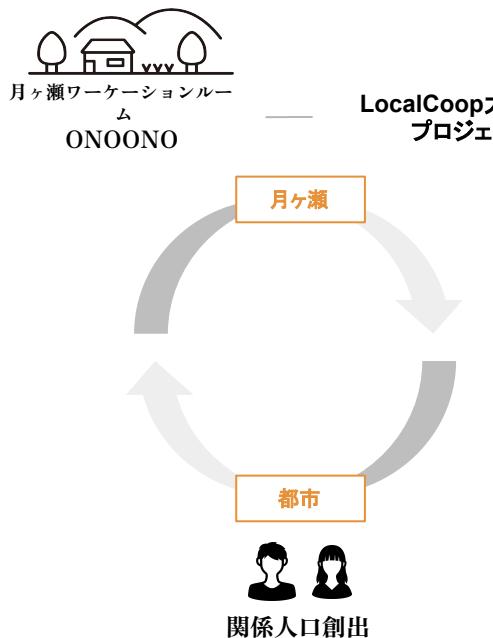
294 件の回答



プロジェクト推進体制



月ヶ瀬での取り組み



自治の再構築

運営・ガバナンス

市委託

自分ごと化会議

構想日本連携事業



大和高原直送便
(共助型物産販売)

おたがいマーケット
(共助型買物支援)

市委託

コミュニティバス運行業務

市委託

再生資源収集運搬業務
(MEGURU BOX)

日本郵便連携事業



自治会連携事業

アミタ連携事業
MEGURU STATION



MEGURU-BIO
(バイオガス施設)

滞在拠点整備

生物多様性サイト整備

共助実装

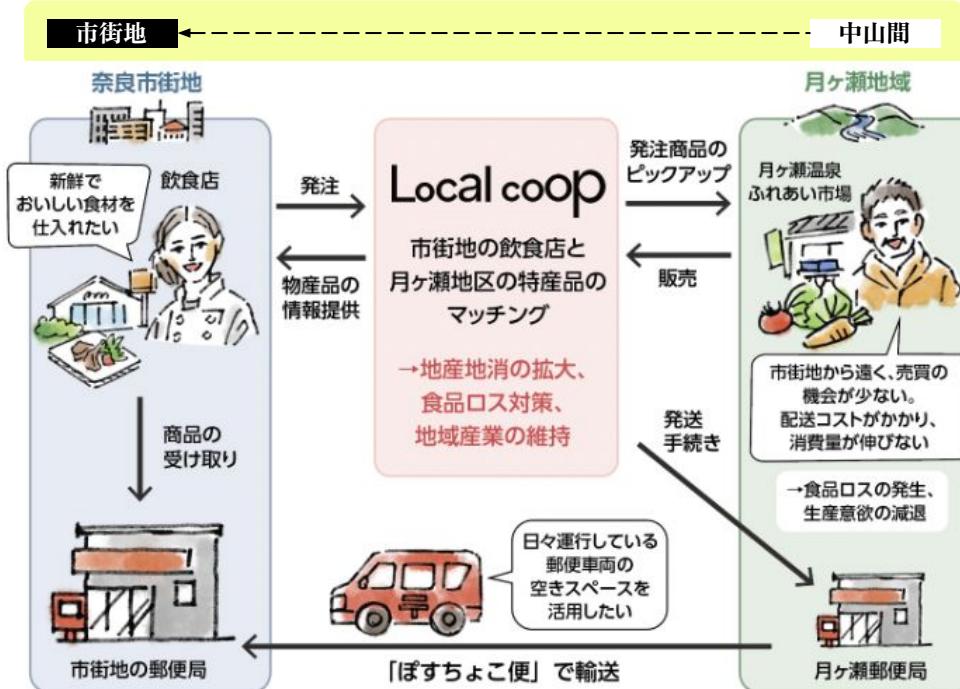
持続可能な行政・生活サービスの実装

共助実装

自然共生社会の形成
(再生可能エネルギー・生物多様性・サーキュラーエコノミー)

大和高原直送便: 共助型物産販売

共助の実装



コミュニティバスの運営主体が月ヶ瀬行政センターから一般社団法人ローカルコープ大和高原に変更となり、すべての月ヶ瀬住民を対象とした定時循環型コミュニティバス「ぐるぐる月ヶ瀬」に新しく生まれ変わりました。

地域のニーズに合わせた運行に。

奈良市直営時

LocalCoop

診療所

学校送迎

→ 各地区の循環

週に1回

→ 週に3回

定時運行

→ オンデマンド



株式会社アミタHDをパートナーに迎え、共助互助コミュニティ機能をもつ再生資源回収ステーション「MEGURU STATION」を各自治会館に設置。24時間365日の再生資源の搬出を可能とすることで利便性の向上と再生資源の搬出行為を通じた住民の日々のコミュニケーション向上を同時に達成します。

また、回収した再生資源は売却し、売却益を一社LCYの活動資源として域内循環システムを構築します。

利便性を担保しつつの効率化と財源の確保。

36カ所 → 6カ所

決まった曜日の朝 → 24時間
365日

まとめて売却 → 地域単位で売却



生物多様性の森づくり

自然共生社会の形成

生物多様性向上に向けた実践と、地元住民を巻き込んだ勉強会の開催

生物多様性の森づくり



自然共生サイト活用セミナー



セルフビルドによる滞在場所の整理

自然共生社会の形成

関係人口の創出を目的とした滞在場所の整備

セルフビルドハウス



自分ごと化会議：月ヶ瀬共助プロジェクト助成制度

地域住民による資源回収活動を通じて得られた売却益を原資とし、住民によるプロジェクトの提案と、全住民を対象とした投票によって助成を行う「月ヶ瀬共助プロジェクト助成制度」。住民自らがプロジェクトを提案・実行し、その選定にも主体的に関わることを通じて、地域への当事者意識や自治意識の醸成を目的としている。



月ヶ瀬地域にお住まいの皆さん

奈良市版自分ごと化会議

月ヶ瀬共助プロジェクト助成制度
募集説明会 開催のお知らせ

あなたのアイデアが、月ヶ瀬の未来を創る！
8/28^{THU} 30ST

月ヶ瀬地区の運営団体の協力により、2024年度の資源回収の売却益として、1年間で [] 万円を予定しております。
このお金を使おう。

「自分たちでやめて、自分たちで活かす」
地域の未来にとって、良いアイデア（インサイト）をもたらすプロジェクトを、住民たちが提案し、住民自身が決めて、実行する。
その第一歩となる「募集説明会」を開催します！

あなたのアイデアが、月ヶ瀬を元気にする！
小さな想いを、カタチにしてみませんか？

日時 8月28日 (木) 14:00～15:00／19:00～20:00
8月30日 (土) 14:00～15:00

会場 月ヶ瀬ワーケーションホールONOONO
奈良市月ヶ瀬町2350-1

対象 月ヶ瀬地域住民すべての方

参加 応募申込が必要です

Q&A

出張できない方へ
・お問い合わせください
・投稿動画を毎日YouTubeにアップ下さい
Local Coop大和高田公式チャンネル
・地域団体に「お詫び状」を実施可能！
希望する団体はお気軽にご連絡ください

[お問合せ先]

一般社団法人ローカルコープ大和高田
担当：石見一郎
Tel.: 080-3451-8900
奈良市月ヶ瀬行政センター
担当：石見一郎
Tel.: 0743-92-0131

月ヶ瀬共助プロジェクト助成制度
今後の流れ

募集説明会・当日プログラム

まずは、お気軽にお参加ください！
応募資料を配布します。

- 応募団体の売却益に関するご報告
- プロジェクト概要説明
- プロジェクト登録手順
- 応募要項：応募対象、助成金額、応募方法（項目、締切等）
- 審査・決定方法
- 賞賛応答

プロジェクトの今後の流れ

以下のスケジュールを予定しています

8月28日 30日	募集 説明会	応募受付 審査 登録	フレンゼン大会 & 住民投票	11月初旬 決選 発表会	2026年3月 プロジェクト 報告会
--------------	-----------	------------------	----------------------	--------------------	--------------------------

Q&A

Q 応募の対象は？
△月ヶ瀬の未来を担う住民の皆さん全員が対象です（応募・投票ともに10歳以上）
△お子様の応募はプロジェクトや財務管理に係る方のサポートをお願いします

Q プロジェクトの実施期間は？
△応募期間：令和7年10月開始
△実施期間：令和7年10月開始（2026年2月まで）
△選考方法：住民によるプレゼン大会＆住民全員投票

A おった貴方は、翌年のプロジェクトに持ち越されます

[お問合せ先]

一般社団法人ローカルコープ大和高田
担当：石見一郎
Tel.: 080-3451-8900
奈良市月ヶ瀬行政センター
担当：石見一郎
Tel.: 0743-92-0131

『ローカルコープが来られて、全く私の個人的な感想なんですけど、なにかが月ヶ瀬の中でちょっとずつ変わってきたかなと実感を受けているんですよ』

『（地域の中にあるしがらみなどの）見えないガラスを破りたい。ローカルコープと一緒にになって、公助があんまり頼りにできない時代という意味でも良い地域にしていけるんじゃないかなっていう、希望を私は持ちました』

徴税と再分配のデザイン



環境価値・カーボンクレジット



関係人口・企業



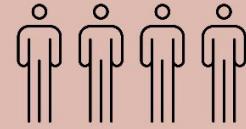
公共サービス
自主運営による収益化

資金と資源 のプール

QF

(Quadratic Funding)

Local coop



- ・インフラ
- ・自然資本（里山・里海）
- ・独自の助成金
- ・教育
- ・OSS